

エマージエンシーコール 利用媒体について

<各媒体の特徴（概要）>

媒体種類	メリット	留意点	費用
アプリ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリの利用に慣れていると使い勝手がよく便利に使える（近年使える方が増えている） ・個人の連絡先（アドレスや電話番号）の登録に抵抗がある従業員でも抵抗なく登録いただける ・過去災害時の規制事例がなく、メール・電話と比較すると規制・輻輳の影響を受けにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期設定（ダウンロード、ログイン）が必要となる（慣れていない従業員は手間取る場合がある） 	標準機能 (費用発生は無し)
メール 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレス所持している従業員は多く一般的な連絡先として登録を促しやすい ・スマホから簡単にメールを閲覧できるようになっていたので閲覧しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷惑メール対策によるブロックやセキュリティ規制の影響を受けやすい ・受信に気が付きにくい場合がある ・若い世代などメールになじみがない方もいる 	標準機能 (費用発生は無し)
LINE 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から利用しているLINEに連絡が届くため、気が付きやすい/回答しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信件数が一定数（プランに応じる）を超える従量課金が発生 	有償オプション機能 一定数を超えると従量課金
電話 (音声) 	<ul style="list-style-type: none"> ・音が鳴るなど他の媒体と比較すると連絡に気が付きやすい傾向にある ・番号の入力だけで済み登録が簡単である 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の着信のタイミングで回答する必要があり、後からの回答ができない ・発信件数に応じた通話料が発生する ・過去の災害では発信規制（輻輳）が発生した事例がある 	利用数に応じた 通話料金が発生

<電話媒体でのご留意事項>

- ・電話回線数には限りがあるため、同時に発信できる電話の数はアプリや電話と比較すると少なくなります。
このため、多数の対象ユーザがいる場合には順番待ちの時間が長く発生するケースがあります。
 - ・着信～回答完了（切断）までの間に1人のユーザが1回線を保有することになるため、メッセージの文面が長い・回答項目数が多いと1人あたりの回線使用時間が長くなり、次のユーザへの発信までに時間を要します。
 - ・電話がかかってきた時に出ることができない場合、折り返してユーザ側からエマージエンシーコールへ自主的に電話して回答することもできますが、折り返し時にはログインを求められます。IDやパスワードに英字が含まれていると折り返しての回答はできません。
- 上記の点から、電話（音声）媒体は、連絡先登録順番の下位とし、アプリやメール等の他媒体を上位に設定することを推奨しています。